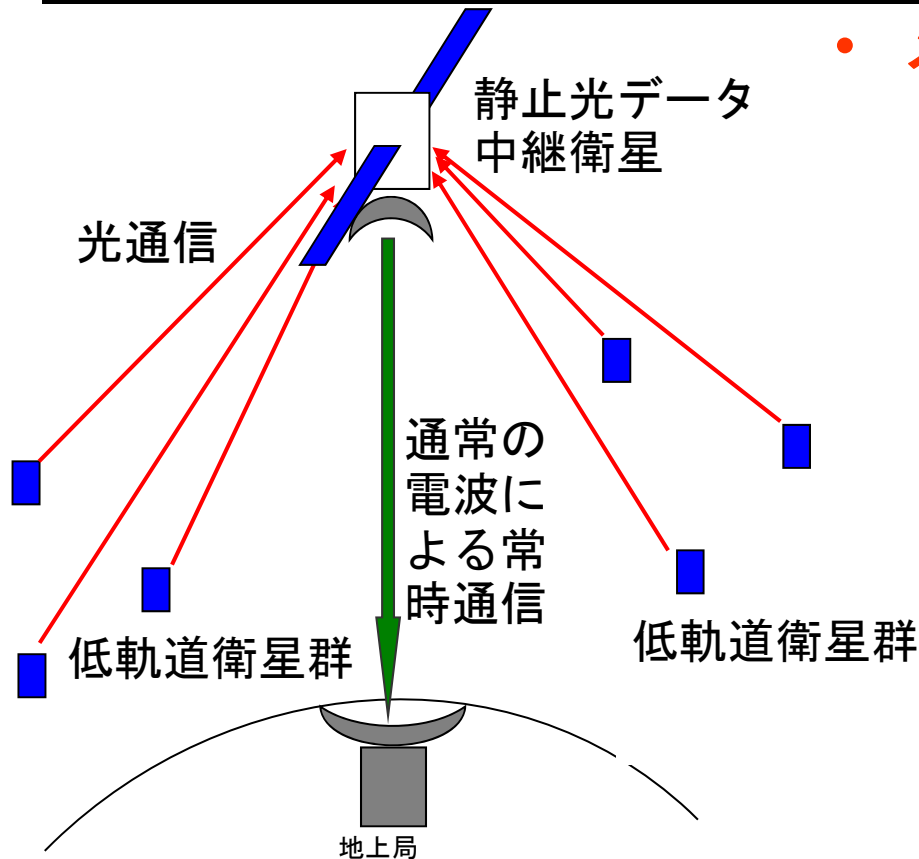


インフラ技術としての静止光データ中継衛星の提案

東京大学 中須賀真一



静止光中継衛星を用いた低軌道衛星用の将来型通信インフラ

電波通信の周波数の混雑加速
即応性、データ量増加の必要性

・ メリット

- ①宇宙・宇宙間の光通信衛星は技術的にはフイージビリティが確認済み
- ②光通信は大きなアンテナや大電力がなくても数Gbpsの大きな通信容量が確保できる
- ③多数機の打ち上げが予想される低軌道衛星がいちいち周波数申請する必要がなくなる(すでに混雑、さらに加速)
- ④天候や昼・夜等の衛星-地上間の光通信の制限が発生しない
- ⑤データ中継衛星は常時地上とリンクが取れるので大容量の通信が可能で、また静止軌道・低軌道間のリンクもとりにやすいことから、即応性(取ったデータをいち早く地上に送る)にも優れている

日本全体として整備してはどうか